

犬山城大手門^{ますがた}枅形跡(犬山市福祉会館跡地) 発掘調査

1 調査の経緯

犬山市福祉会館跡地では、令和3年に実施した発掘調査の結果、大規模な堀や土塁が確認されました。

今回の調査は、犬山市福祉会館跡地の史跡整備に向けて、絵図と令和3年に実施した発掘調査の成果を元に、堀の北側に存在した土塁の北端を確認することを目的に6・7・8トレンチを、枅形南側の東西に走る堀の北端を確認するために9トレンチを設定して調査を実施しました。

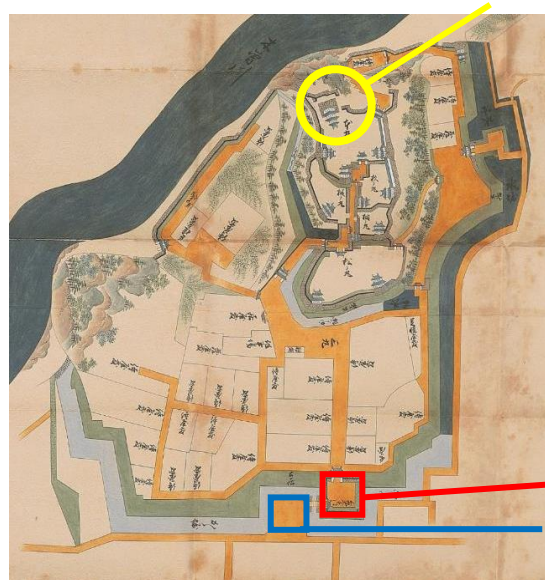


図1 犬山城修復願雛形絵図 安永9年(1780)犬山城白帝文庫蔵(一部加工)

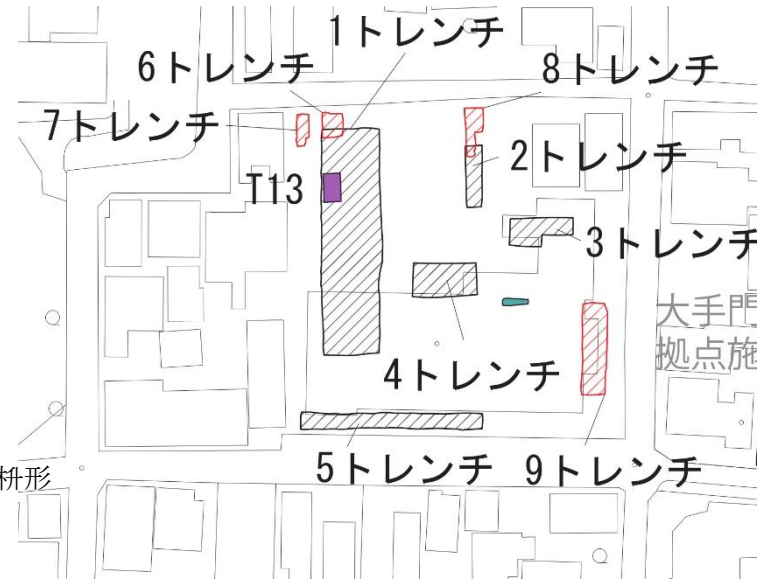


図2 調査区設定図



写真1 大手門古写真 明治初年 個人蔵

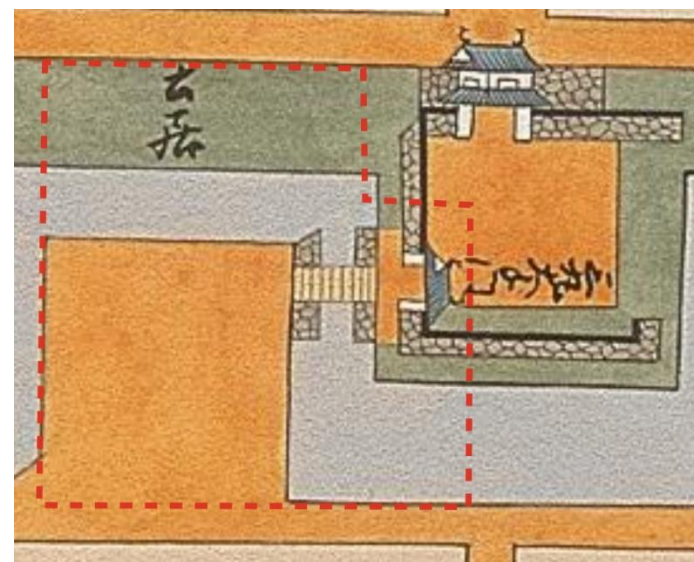


図3 犬山城修復願雛形絵図(一部拡大図)
(赤点線は福祉会館跡地の想定位置)

3 調査成果

今回の調査で、これまでに次のことがわかりました。

- 6トレンチと7トレンチで土塁の北端を確認しました。8トレンチでは北端が確認できなかったことから、土塁の軸は堀と同じくやや北側に振れていたとみられます。
- 8トレンチでは江戸期の土塁と令和3年度の調査で確認されていた戦国期の堀の延長に加え、戦国期の土塁を確認しました。江戸期の土塁は戦国期の土塁を芯にして作られたとみられます。
- 江戸期土塁の北側の構築方法を確認しました。土塁は、最初に地盤面を平らにするために固く締め固められた整地層、次に礫を多く含む基礎を構築し、その後、土塁の裾部に北端を決めるための盛土を行い、最後に堀を掘ったことで発生した土を南から北に向かって、山状の盛土の内側に積み上げて作ったとみられます。
- 枅形南側に東西に走る堀の北側斜面を確認しました。過去の調査の結果と合わせて、この場所の堀幅は、絵図の記載(10間(約18m))よりも狭い約14mであったとみられます。
- 大手門枅形の地業の痕跡を確認しました。ただし、当時の地表面や遺構などは、福祉会館建築に伴う工事により残されていないと判断しました。

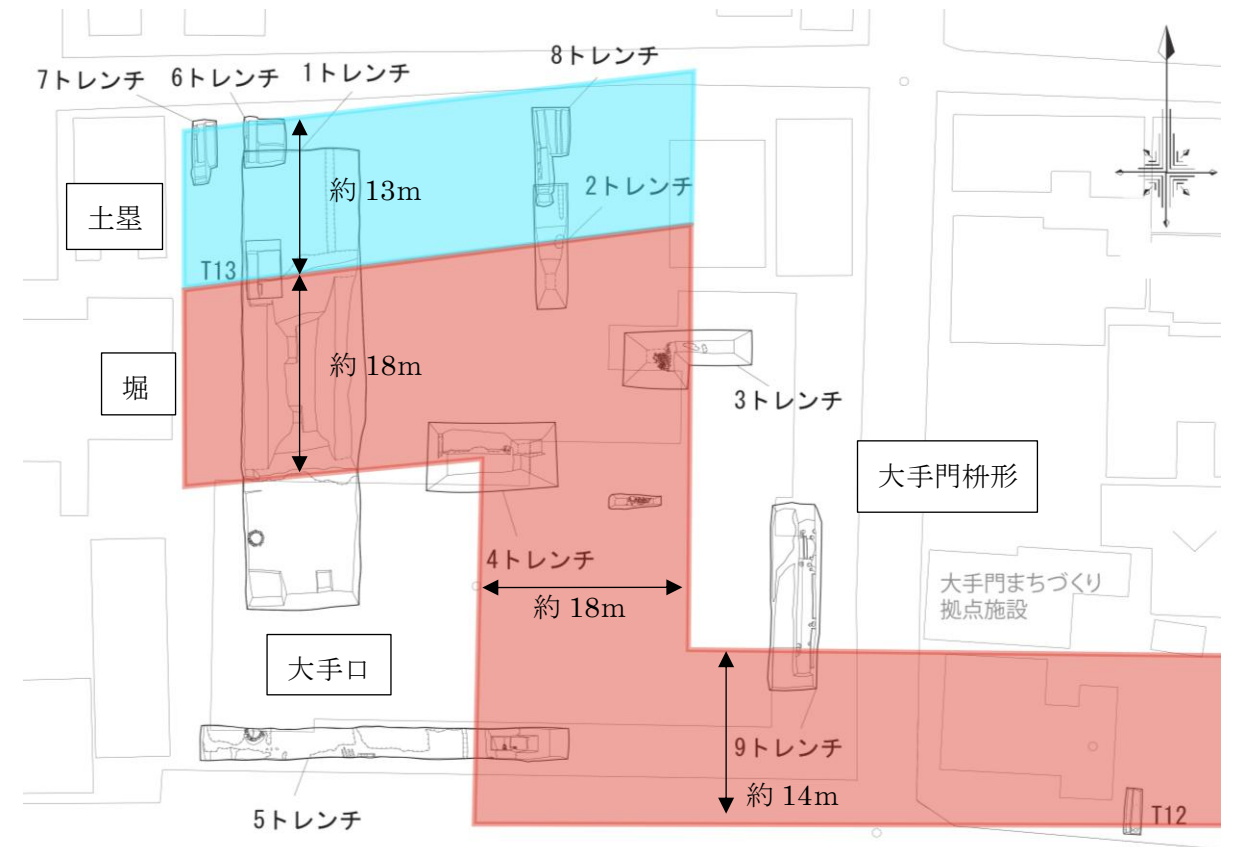
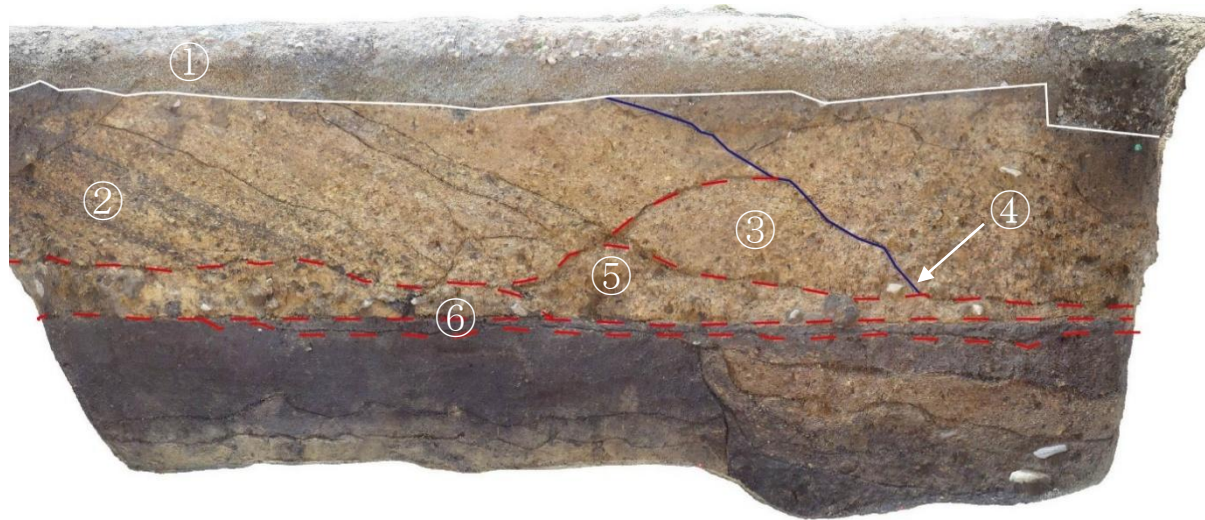


図4 発掘調査位置図と、堀・土塁の想定位置(11月時点)

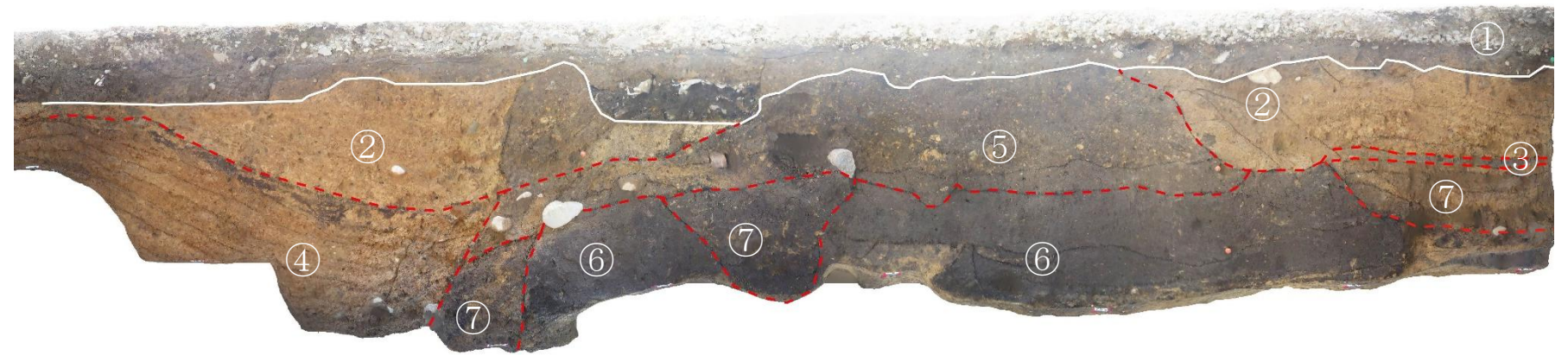
4 今後の予定

発掘調査は6月中旬に終了し、現在は図面の作成や遺物の実測などの整理作業を実施しています。調査結果は史跡整備基本設計の基礎データとして活用するとともに、今年度末に発掘調査報告書として取りまとめる予定です。



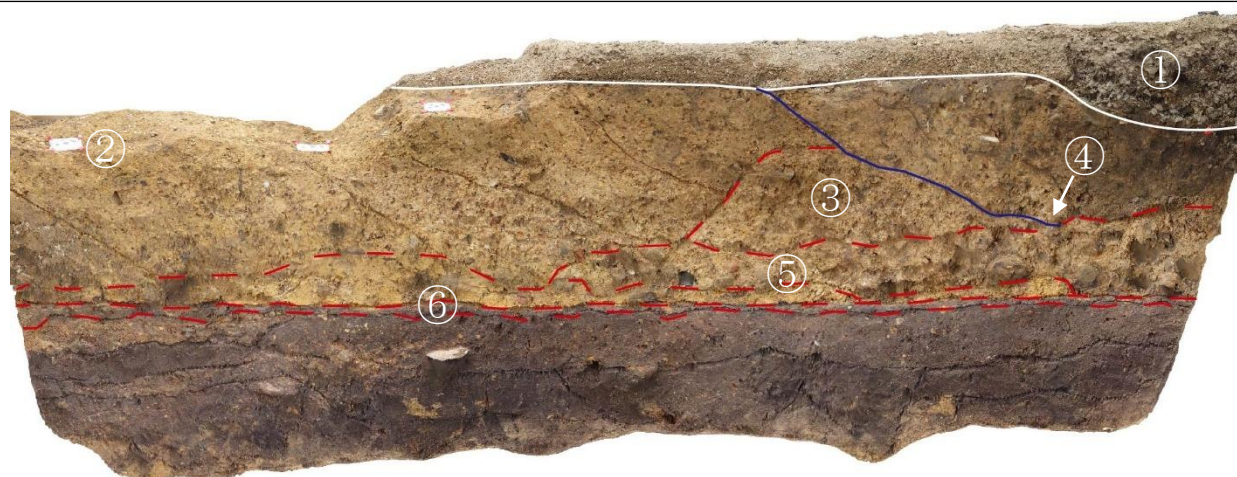
7トレンチ土層断面(東から)

- ①福祉会館建設に伴う整地 ②江戸期の土塁の盛土 ③土塁裾の盛土
④土塁北端 ⑤土塁基礎 ⑥整地層



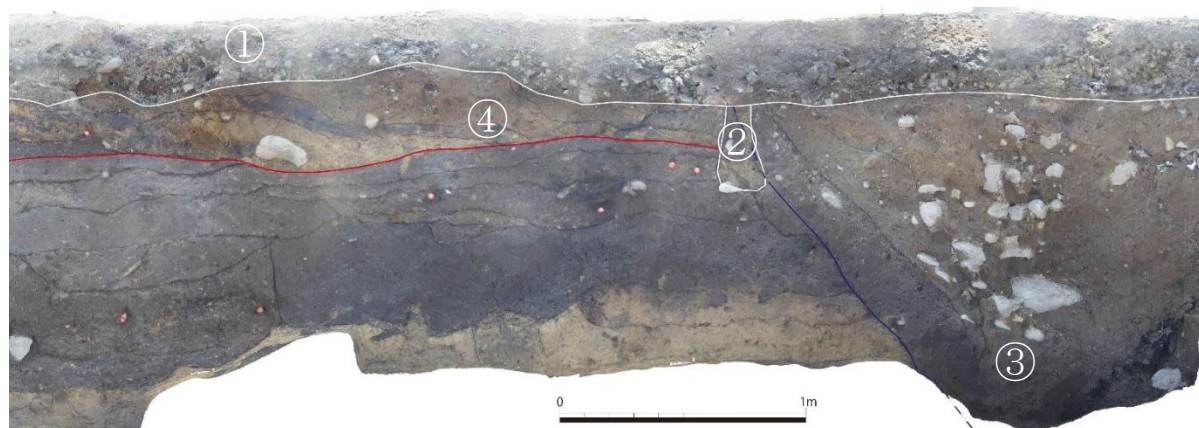
8トレンチ土層断面(東から)

- ①福祉会館建設に伴う整地 ②江戸期の土塁の盛土 ③整地層 ④戦国期の堀を埋めた跡 ⑤戦国期土塁 ⑥自然堆積層
⑦戦国期以前の遺構



6トレンチ土層断面(東から)

- ①福祉会館建設に伴う整地 ②江戸期の土塁の盛土 ③土塁裾の盛土
④土塁北端 ⑤土塁基礎 ⑥整地層



9トレンチ土層断面(西から)

- ①福祉会館建設に伴う整地 ②福祉会館建設以前の攪乱 ③江戸期堀
④江戸期地業層

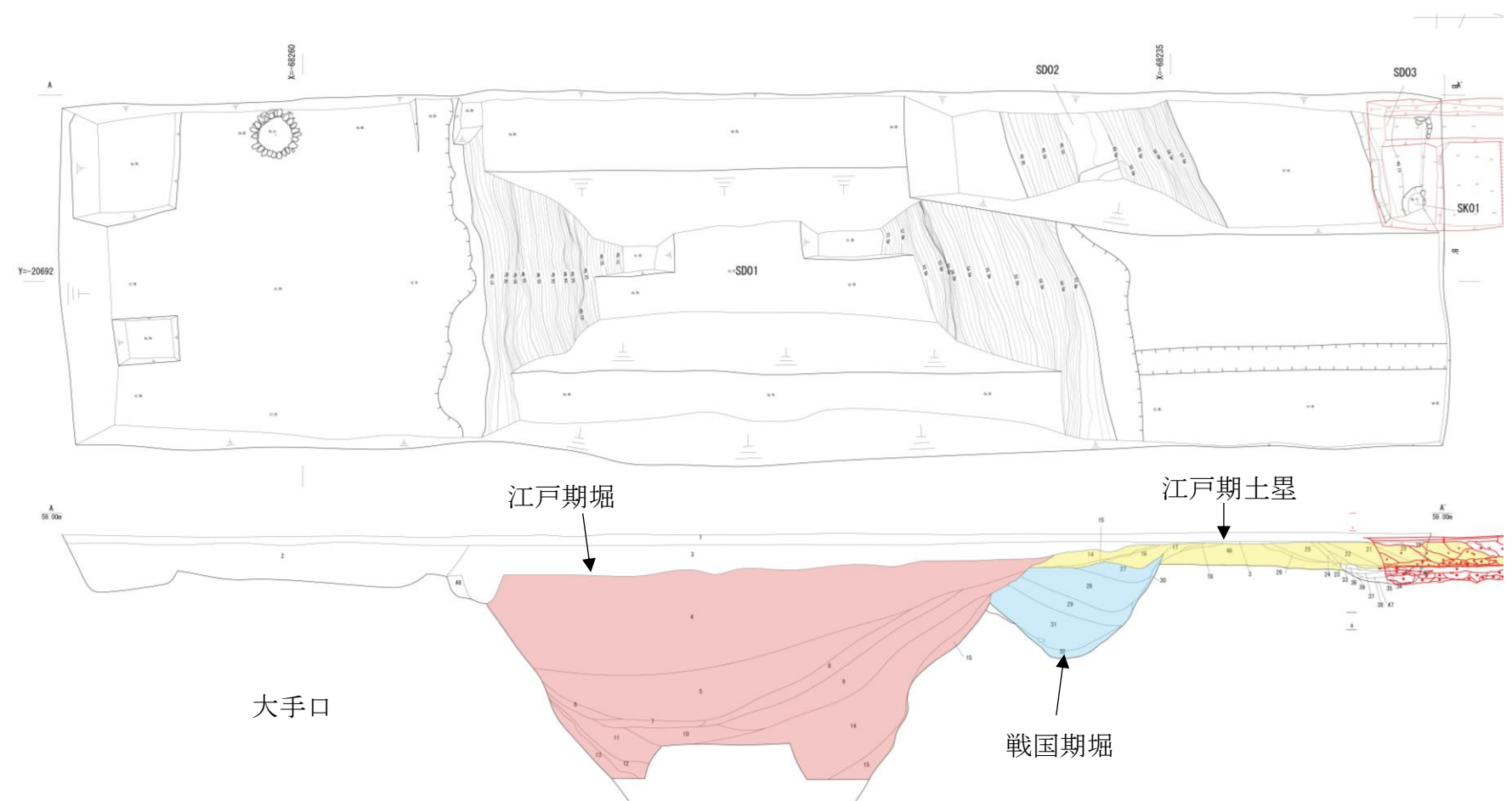


図5 令和3年度1トレンチと令和7年度6トレンチの堀と土塁の調査結果